畿央大学大学院教育学研究科

Kio

2017 年度 フォーラム

日本における
インクルーシブ教育の最前線と研究の課題

日　時　　2017 年 11 月 18 日（土）13：30 ～ 16：30

会　場　　畿央大学　冬木記念ホール

主　催　　畿央大学大学院教育学研究科

後　援　　奈良県教育委員会、広陵町教育委員会
香芝市教育委員会、大和高田市教育委員会

THEME
テーマ

日本におけるインクルーシブ教育の最前線と研究の課題

本学大学院教育学研究科は、創立当初から、各種の障害や健康問題などの困難を抱える児童・生徒の諸課題について、実践的で高度な知識・技能を備えた教育を行うとともに、これらの諸課題を一層深く研究することをめざして、特別支援教育研究のプロジェクトを推進してきました。

2006年、国連で採択され、2014年に日本も批准を行った「障害者権利条約」の第24条には、教育についての障害者の権利を明確に認め、障害者を包含するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保することが謳われています。これは、これまで世界各地でさまざまに実践されてきたインクルーシブ教育の流れが国際的なひとつの大きな本流として立ち現れてきたことを意味します。インクルーシブ教育は、障害者を排除せずに、障害のあるものもないものも共に学び、共に生きることを理念としたものです。

他方、日本においては、文部科学省は2006年の学校教育法の一部改正において、特殊教育から特別支援教育へとシフトしました。このシフトは、対象の児童・生徒を拡大したことにとどまらず、これまでの障害児者の教育概念を大きく変えるものでした。同時に、旧来の研究が改めて問い直される契機になりました。

特別支援教育とインクルーシブ教育は概念として同じではありません。けれども、特別支援教育とは、special support education の英語訳ではなく、special needs education の意味であるとすれば、特別支援教育とインクルーシブ教育との距離は、それほど遠くはないでしょう。とすれば、両者は理論的、実践的に、どこで、どのように切り結ぶことが可能なのでしょうか。

本フォーラムの目的は、現在の日本の法や制度の状況、世界の流れと日本の現状、本学での研究の到達点と課題、特別支援教育と地域との関係の（再）構築などの論点をめぐって、本分野の最前線で活躍されている方々をお招きし、インクルーシブ教育の振り返りと今後の課題に向けて自由に論じ合っていただくことにあります。本研究科の特別支援教育研究の飛躍と発展は、そこから始まると願っています。

畿央大学大学院教育学研究科長　教授　前平　泰志

FORUM
フォーラム提案

■日本におけるインクルーシブ教育の最前線

畿央大学教授　渡邉　健治

2012年7月23日の中央教育審議会において、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が、初等中等教育分科会報告として示された。これ以来、全国的にインクルーシブ教育という用語が使用されだし、新しい試みが各地で展開されるようになった。ここでは、そうした試みが、日本のインクルーシブ教育システムの進展に寄与しうるのか、あるいは国際的なインクルーシブ教育の観点からどのような意味をもちうるのか検討したい。

■畿央大学におけるインクルーシブ教育研究の到達点と課題

畿央大学准教授　大久保　賢一

本学研究科においては、研究科のプロジェクト研究として、これまで公立学校における「合理的配慮」の実施状況について一連の全国調査研究を実施してきた。本フォーラムでは、それらの調査によって明らかとなった小学校と中学校における「合理的配慮」に関する実施状況や教師の意識について、その概要と傾向を報告する。そして、我が国の学校教育におけるインクルーシブ教育システム構築に関する到達点と今後の課題について検討を深めたい。

■特別支援教育の地域支援研究の現状と課題

京都教育大学教授　相澤　雅文

2013年度より「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」が始まり、圏域内の教育資源の組合せ（スクールクラスター）の在り方が問われている。特別支援学校のセンター的機能のみならず、地域内の関係者によるケース検討会議や、通級指導担当教諭による地域内の学校への支援（巡回指導等）、特別支援学級担当教諭による地域内の学校への支援（巡回指導等）などの地域支援研究が、日本のインクルーシブ教育システムの進展に与える影響や今後の方向性について検討したい。

PROGRAM

プログラム

司　会

明官　茂　国立特別支援教育総合研究所研修事業部長兼上席総括研究員
島　恒生　畿央大学教授

13：30 ～ 14：30　基調講演

日本における特別支援教育の現状と展望

―特別支援教育の現状、次期学習指導要領、教員の専門性向上など―

山下　直也　文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長補佐

14：40 ～ 16：30　フォーラム

提　案

日本におけるインクルーシブ教育の最前線

渡邉　健治　畿央大学教授

畿央大学におけるインクルーシブ教育研究の到達点と課題

大久保　賢一　畿央大学准教授

特別支援教育の地域支援研究の現状と課題

相澤　雅文　京都教育大学教授

指定討論

中井　和代　奈良県立教育研究所特別支援教育部長
井坂　行男　大阪教育大学教授

コメンテータ

宮崎　英憲　東洋大学名誉教授

16：45 ～ 18：30　情報交換会　（事前申込制　会費 500円当日徴収）

PROFILE

プロフィール

山下　直也

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長補佐

福島県福島市出身。平成9年北海道大学採用。
その後，平成14年に文部科学省に転籍。
大臣官房人事課で人事、服務、人事評価等の業務に長く従事。
教育行政では平成17年4月から平成19年3月初等中等教育局教育課程課。
平成26年4月から平成29年3月国立大学法人福島大学出向。
平成29年4月より現職。

中井　和代

奈良県立教育研究所特別支援教育部長

大阪教育大学で肢体不自由児教育を専攻。特別支援学校の教員としてたくさんの子ども達との出会いから教育実践を重ねるとともに、地域支援担当としての役割を担ってきた。平成22年度から県立教育研究所にて教員養成や教育相談、地域支援体制づくりに関わる。

宮崎　英憲

東洋大学名誉教授

東京都立養護学校教諭・教頭・校長を経て東京都教育庁人事部勤務。東京都立青鳥養護学校長を経て2003年から東洋大学文学部教授。2013年から東洋大学名誉教授・参与。全国特別支援学校長会長、文部科学省中央教育審議会臨時委員などを務める。2010年から中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会特別支援教育特別委員会委員長として『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』2012』を取りまとめた。2015年文部科学省「障害者差別解消法の実施に関する調査研究協力者会議」主査として「文部科学省所管事業分野の対応指針（案）」の策定を担った。

相澤　雅文

京都教育大学教授
博士（教育学）東北大学

仙台市の公立学校教員、国立大学附属学校教員、発達相談センター主査等を経て、平成20年から京都教育大学特別支援教育臨床実践センター准教授。平成24年教授。平成26年から附属特別支援学校校長を兼務。専門は障害児教育学、知的障害のある子どもの教育、集団適応の困難な幼児児童生徒への支援のあり方などについて取り組んでいる。特別支援教育士SV、臨床発達心理士SV（資格認定委員）。

明官　茂

国立特別支援教育総合研究所研修事業部長兼
上席総括研究員

東京都で養護学校教諭・教頭、教育庁指導主事・主任管理主事を経て、青鳥特別支援学校・町田の丘学園で校長。平成22年から26年まで全国特別支援学校知的障害教育校長会長。平成27年から独立行政法人国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員、29年から全日本特別支援教育連盟副理事長兼務。専門は知的障害教育、学校経営。

井坂　行男

大阪教育大学教授
修士（教育学）上越教育大学

茨城県での聾学校教諭を経て、平成11年から大阪教育大学助教授、平成23年より教授。平成25年から障がい学生修学支援ルーム長を兼任。専門は聴覚障害教育学、聴覚障害のある幼児児童生徒の言語獲得・習得支援に対する実践的な検討やアジアの開発国における特別支援教育の開発支援にも取り組んでいる。言語聴覚士、学校心理士SV。

PROFILE
プロフィール

前平　泰志

畿央大学　教育学研究科長・教授
修士（教育学）京都大学、京都大学名誉教授

ユネスコ教育研究所所員、京都大学教育学部助手、甲南女子大学講師、助教授、教授を経て、京都大学助教授、教授、大学院教育学研究科長、教育学部長を歴任。平成27年度より畿央大学教育学部長。専門は生涯教育学。教育をマクロな視点で捉える研究からシフトし、現在はミクロな視点に立って、地域に足を運びながら、教育の新たな理論と実践を構築するための研究に取り組んでいる。

渡邉　健治

畿央大学教授
博士（教育学）筑波大学、東京学芸大学名誉教授

東京学芸大学専任講師、助教授、教授を経て平成16年より20年まで東京学芸大学理事・副学長。その間、日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門代表、日本特殊教育学会で免許問題等検討委員会委員長を務め、特別支援教育について文部科学省にも提言。現在も障害児教育実践研究会会長を務めるなど日本における障害児教育の理論と実践のリーダー役として活躍している。

島　恒生

畿央大学　教育学研究科主任・教授
修士（教育学）兵庫教育大学

小学校教諭、奈良県立教育研究所教科指導副部長を経て、畿央大学教育学部教授。文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者」「中央教育審議会初等教育分科会道徳教育専門部会委員」「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議委員」を務める。道徳教育、生徒指導、学級経営等についての執筆多数。全国の教育委員会や学校での研修会講師として活躍している。

大久保　賢一

畿央大学准教授
博士（心身障害学）筑波大学

筑波大学大学院博士課程において発達障害支援の臨床活動や研究に携わり、2010年に学位を取得。2008年から2014年まで北海道教育大学准教授として特別支援教育に関わる科目の教鞭を執り、2014年4月から現職へ。専門は応用行動分析学、行動コンサルテーション。最近は学校支援（教員研修）や福祉事業所における強度行動障害支援にも精力的に取り組んでいる。

REGISTER
お申し込み方法

お申し込みは

①氏名　②所属　③連絡先住所・電話番号・メールアドレス　④情報交換会の参加または不参加
をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。

送信先：畿央大学大学院教育学研究科 フォーラム係
ＦＡＸ：0745-54-1600　E-mail：uketsuke@kio.ac.jp

※ご記入いただいた個人情報は、本フォーラムの運営に関することのみに使用します。
※情報交換会はささやかではございますが軽食とアルコールを用意しております。
事前申し込み制で当日に会費500円を徴収いたします。
会場の都合により先着１００名様とさせていただきます。
人数が多数によりご参加いただけない場合のみご連絡いたします。ご了承ください。

ACCESS
アクセス

■なんば、天王寺から近鉄大阪線「五位堂」駅まで約27分

■五位堂駅から畿央大学までは徒歩15分、またはバスで5分

※公共交通機関をご利用のうえお越しください。

お問い合わせ先

畿央大学大学院教育学研究科　フォーラム係（畿央大学総務部）
〒635-0832　奈良県北葛城郡広陵町馬見中4丁目2-2
TEL：0745-54-1602　FAX：0745-54-1600　E-mail：soumu@kio.ac.jp